



2024年12月17日
第105号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第4号

「南武線ワンマン運転について」に関する解明申し入れ 【全25項目】団体交渉を行う！⑨



14. 車椅子対応についての考え方およびバディコムの実績を明らかにすること。

【会社回答】車いすご利用のお客さまには、事前にご連絡を頂けるよう案内を行っていく。

なお、バディコムについては導入に向けた準備を進めているところである。

組 合	会 社
実際に乗務員が対応を行うことがあるのか示すこと。	<u>現段階で乗務員が対応することは考えていない。</u>
バディコムを試使用しているが、使用実績や不具合等、会社が把握しているものを示すこと。	実際に、武蔵新城駅でトライアル中に駅社員がバディコムを使用してお客さま案内を行っているのを見させていただいた。順調に進んでいるが、 警備会社でバディコム使用時に個別モードでなく全体モードで使用してしまう課題があり、全体だと他の箇所で使用できなくなるので警備会社に徹底している。
バディコム不具合時の対応について示すこと。	本体・委託駅含めて、 <u>通信不能の場合は危険を回避するという考えで、あらゆる手段を使って列車を一旦止めるという話をしている最中である。</u> 例えば「列停を押す」等、最終的にどうするか検討している。
<u>運転士が駅構内の放送が聞き取りにくいことは認識しているのか。</u>	会社としても、 <u>駅の放送が「聞こえにくい」「聞こえない」ということは認識している。</u>
駅社員が試使用で着用しているビブスについて、かなりわかりやすいと思っているが、意見等が把握されていれば示すこと。	ビブスもトライアルでの検証の一つ。南武線オフィスから「 視認性は良い 」という意見をいただいている。
レアケースだが、以前目の前に乗車されている車いすのお客さまが「トイレに行きたい、すぐに降りたい」と申告を受け、指令へ降車できる駅を要請したが、ワンマン運転の場合はどのように対応するのか示すこと。	一つの例として、走行中にお客さまが乗務員室扉を叩かれて何かしら異常がある場合は 列車を止めていただき、お客さまの話を聞いて指令に状況を連絡していただければ問題ないと考えている。 このような状況があれば、一旦止めて確認していただく。

15. 人身事故および踏切事故発生時等で車両を離れなければならない時の対応方について明らかにすること。

【会社回答】これまで同様に、乗務員室を離れる場合は必要な措置を行うこととなる。

組 合	会 社
☆長時間車両を離れた際の車内秩序の維持について	
長時間、車両を離れる際の車内秩序の維持について示すこと。	<u>区所で指導されている手順に従っていただき、現場で対応していただくこととなる。「指令間通話機能」もあり、お客さまが車内警報ブザーを扱えば指令が車内放送も含めて対応することもできる。さらに、近隣の駅社員や区所、統括センター総体で現場に駆けつける考えに変わりはない。</u>
防犯カメラについて、その機能は（東急のような）通信式なのか。それとも、録画式なのか示すこと。	<u>録画式ではないかと思われる。</u>
通信式と録画式では、車内の状況や指令からのアプローチの仕方が変わってくるという認識はどうか。	防犯カメラについては、 車内秩序を守る機能を有するものと考えている。
ワンマン運転では車掌がないため、お客さまがDコックを扱うことも想定されるが、その場合の対応について示すこと。	<u>現在のスキームと同じで、併発事故防止に努めていただく。この点は変わらない。</u>
踏切事故についての考え方、その際に運転士が重傷を負った場合の考え方について示すこと。	踏切事故については引き続き啓蒙活動を行っている。 運転士が負傷した場合、できる限り行っていただきつつ、駅等も駆けつけるので総体で協力してやっていただく考えである。
☆V I Sの機能について	
ドア上のV I Sモニターの機能について、例えば災害時にNHKの放送を流せるような機能を付けることは可能なのか。	別件で、V I Sを別の用途に使用できるのかどうか車両の方に訊いたが、 <u>当時は「追加機能を付けることはできない」と聞いている。</u> 今は時代が変わっているが、手持ちが無いので示せない。

16. 大規模災害時など、お客さまを避難・誘導する必要があるときの取り扱いについて明らかにすること。

【会社回答】お客さまを避難誘導する際は、防災業務実施計画に基づき、

もっとも安全と考えられる方法で避難誘導を行うこととなる。

組 合	会 社
ワンマン運転時において、災害発生時に運転士がどのようにお客さまを避難・誘導するのか。考えを示すこと。	様々なケースがあるが、客室内にお客さまが使用できる避難ハシゴを搭載している。防災訓練等も行っている。 東日本大震災時もそうだったが、お客さまや鉄道関係者・警察・消防等に協力を求めながら、必要であれば避難・誘導も行っていく考えである。

次号⑩へ続きます。